



※熊谷さんの作品をご希望の方は「秋田ずらりネットショップ」をご覧ください。  
<http://akita-zurali.jp/>

熊谷さんの作品には、ガラスのはかなさを愛おしんでいるような風情が感じられる。だからこそ、惹かれるファンも多いのかもしれない。

高校卒業後、熊谷さんは3年間を社会人として過ごした。しかし、心の中にはずっと、ものをつくりたいという思いがあつて、学費のため、秋田公立美術工芸短期大学に入学した。その経緯を熊谷さんは、「いろんな方に「迷惑をかけた」と、振り返る。専攻をひとつに絞る2年時には、迷わず、ガラスを選んだという。

「その時にはもう、将来はガラスでやっつけようと思っていました」

熊谷さんは、研究生を経て、現在は教務補助勤務のかたわら、大学内の工房で制作を続けている。

多様なガラス工芸技術の中でも、熊谷さんは「ギルンワーク」という技法にやりがい

を感じていると言う。

「原型をつくって、型をとって、その中に材料となるガラスを詰め、溶かし固めていく。最初から最後まで、自分の思いを計画的につくり上げていけるのが面白いんです」

大学の工房からは海が近く、例えば砂浜でひろった貝殻や木の枝などが、アートのイメージに結びつくこともある。

「東日本大震災の後、1ヵ月くらいは、作っていてもいいのかとの思いがあつて、何もできない状態でしたが、今は、なおさら、創作できる喜びを感じるようになりました。ガラスを通じて、少しでも心がゆたかになるような作品を制作していきたいと思っています」

愛着のあるものをそばに置いて暮らす幸せを、手づくりのガラスが、気づかせてくれる。



SHUN KUMAGAI

ガラス作家  
**熊谷 峻さん**  
 TEL.090-2990-1850  
<http://kumagai-shun.jimdo.com>



## ガラスの内側にあるもの。

透明で、輝いて、美しい。  
 ガラスの魅力はそれだけではない。  
 熊谷さんは、もろく、切なく、  
 おぼろげな奥深いガラスの世界を  
 見つけている。



私の GALLERY  
 ガラス工芸